AGU NEWS 青山学院大学

No.29

AGUニューズ第29号
[2005年11月～12月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111（代表）
URL. http://www.aoyama.ac.jp/agunews/

相模原キャンパス

特集 AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

巻頭座談会
青学スポーツの「強さ」と「魅力」

AGU TOPIC
「大学日本一」に輝いた、青山学院大学硬式野球部

TOPICS
WTO設立10周年記念国際シンポジウム開催
知的資産マネジメントに関する共同研究
第1回経営学部夏季ビジネス英語研修

報告・お知らせ
青山学院大学後援会報告
2005年度就職関連行事

誌上公開講座
フレッシャーズセミナー
「読書の喜びを見出すためのゼミ」

INFORMATION
オープンキャンパス開催報告
高校1・2年生のための大学説明会

特集

巻頭座談会

青学スポーツの「強さ」と「魅力」

今年度も、青山学院大学学友会体育連合会の快進撃が続いています！　硬式野球部は東都大学野球春季リーグ戦優勝に続き、全日本大学野球選手権大会で“大学野球日本一”の座を獲得。そして女子バレーボール部は春の関東大学リーグ戦、東日本インカレでそれぞれ優勝を果たしました。
そこで、熱心な体育会サポーターである武藤学長と江泉体育会長に、それぞれの立場から硬式野球部と女子バレーボール部の主将と体育会活動に対する熱い思いを語り合っていただきました。

武　藤　まず、両部の快挙に心から「おめでとう!」の言葉を贈りたいと思います。

藤野・山本　ありがとうございます!

江　泉　今シーズンの野球部は、決して下馬評は高くなかったのですが、チーム一丸となった見事な戦いぶりだったと思います。

藤　野　確かに山岸（穣・現西武）、加藤（領健・現ソフトバンク）両先輩がいた昨年度のチームの方が選手の個人能力は上だったかもしれません。しかし、私たちは昨年1年間の試合を通して、決して個人の能力だけでは勝てないということを学んでいましたから、今年はチームが一致団結して最大限の強さを引き出す“全員野球”で臨みました。

武　藤　全日本大学野球選手権大会の決勝戦で、ケガで欠場した強打者の円谷（英俊・経済学部3年）君の代役を務めた夏井（一志・文学部4年）君が放った渾身のサヨナラ打は、その“全員野球”を象徴する感動的な出来事でした。

江　泉　まさに藤野キャプテンのチームをまとめ上げる努力が実ったということですね。

藤　野　いえ、私個人ではなくチーム全員の努力の結果だと思います。

江　泉　日本一に輝いた瞬間、河原井監督の胴上げの後で、スタンドから藤野君の胴上げコールが湧き起こりましたよね。

藤　野　ええ、あれはうれしかったです……。

江　泉　つまり部員たちが、キャプテンの努力をしっかり認めていたということですよ。あの胴上げシーンは私も心から感動しました。
全日本大学野球選手権大会では連勝記録も更新し、これで負け知らずの16連勝。記録に対するプレッシャーはありましたか。

藤　野　全くなかったといえば嘘になりますが、あまり気にせずに、目の前の一戦一戦を確実に勝ち抜こうと考えていました。でも、今振り返ると、自分たちが記録をストップさせずにすみ、心からほっとしています（笑）。

武　藤　今回は、誰か飛び抜けた選手の力ではなく、“全員野球”という形で日本一に輝いたということが、大きな意味を持つように思います。実に青山学院大学らしい勝利です。

江　泉　本学にはスポーツ推薦（スポーツに優れた者の入学試験）もありますが、野球部は一般入学試験での入学者も多いようですね。

藤　野　ええ、私を含めて50人の部員の約半数が一般入学試験での入学です。

江　泉　日々の練習のなかで一般入学と推薦入学の部員の間の関係はどうなっているのですか?

藤　野　特にこだわりなく練習しています。でも、個人的にはスポーツ推薦の学生に負けたくないという気持ちはずっとありました。

武　藤　そんな藤野君が、今、キャプテンとしてチームを率いているということが、私はうれしいですね。それもまた、青山学院大学らしいあり方のように思えます。

◆　◆　◆

江　泉　女子バレーボール部も、昨年活躍した長身の木村智香子選手（現デンソー）が抜け、他大学に比べると高さでのハンディがあったにもかかわらず、見事な戦いぶりでした。

山　本　選手一人ひとりが責任感を持って、いいプレーをしてくれたおかげで、青学のスピードバレーを最高の形で発揮できたと思います。苦しい展開の試合もありましたが、選手のみんなが自分たちのバレーを楽しみながら、イキイキと戦ってくれました。

江　泉　女子バレーボール部員は、みんなとても明るいですね。キャンパスで私と会うと大きな声と笑顔で挨拶してくれて……。そうそう、全日本大学野球選手権大会決勝戦では、山本さんをはじめ女子バレーボール部の選手たちが神宮球場まで応援に来ていましたね。表彰式で私はあなたたちのすぐ近くにいたのですが、「日本一ってかっこいい!　私たちも優勝しちゃおう」と言っているのを聞きました。すごいこと言うなあと感心しましたよ。でも、その言葉通り東日本インカレで優勝したので、さらに感心しました。

山　本　2週間後に東日本インカレを控えていましたので、野球部の日本一は大きな刺激になりました。実は春のリーグ戦で優勝後、チーム内に少々気のゆる

みが感じられていたのです。でも、野球部の素晴らしい試合を見たおかげで、みんなの気持ちが引き締まり、モチベーションが一気に高まったのです。

江　泉　青山学院記念館での試合では、OBや関係者の応援が盛りあがっていましたね。

山　本　はい。今シーズンはとても多くの人たちが応援に駆けつけてくれたので、それも私たちの勝利の原動力になりました。

江　泉　二人とも、大学の友人や先生が大勢観客席にいると、プレッシャーを感じませんか?

藤　野　プレッシャーとして受けとめないようにしていますが、つい力んでしまうこともありますね（笑）。でも、たくさんの人に応援されるとやはり励みになります。大きな大会の直前になると、キャンパス内で友人から「がんばれよ!」と声をかけられることもあり、そういう一言も「絶対勝つぞ!」という気持ちを高めてくれます。

山　本　女子バレーボール部は、私を含めて応援が多いほど燃えるタイプの部員が多いので、とにかくたくさんの人に試合も見てもらいたいです。よろしくお願いします!

武　藤　女子バレーボール部は青山学院記念館、野球部はキャンパスからほど近い神宮球場で試合が行われています。ぜひ、多くの学生のみなさんに応援に行っていただきたいですね。

◆　◆　◆

江　泉　二人がそれぞれキャプテンとしてどのようなチーム作りをしているか、聞かせてください。

藤　野　私は小久保（裕紀・現巨人）先輩や井口（資仁・現メジャーリーグ／ホワイトソックス）先輩らによって築かれた良き伝統は守りつつ、「楽しく、のびのびと野球ができるチームづくり」を心がけています。

武　藤　硬式野球部は、小久保君がキャプテンを務めた時代から、全体練習の時間を短縮したと聞いていますが?

藤　野　ええ、選手個々のやる気に応じた個人練習を重視しています。あくまでも大学生として学業優先なので、それぞれが授業の合間や夜間の時間などをフルに使って練習に励んでいます。

江　泉　学業とスポーツの両立は確かに厳しいことです。でも、その厳しさと向かい合った経験は、社会に出た際も、力強く職務と使命を果たすことができる人間を育てるはずです。私は、授業やゼミでもそんな体育会の学生を温かく見守り、できる限りバックアップをしていきたいと思っています。

山　本　私たちも学業優先で、全体練習は他の強豪大学に比べて少ない方だと思います。全体練習のメニュー自体も部員が自主的に考えています。また、女子バレーボール部では、下級生の意見を上級生がしっかり受けとめる雰囲気があります。だから1年生から4年生まで、部員同士とても仲がよく、チームとしてのまとまりでは、他大学には絶対負けない自信があります。

武　藤　個人の自立心を尊重した自由な雰囲気で、仲間同士の信頼感にあふれている……実に青学らしいチームカラーであることが、私はうれしいのです。おそらく監督の指導方針もあるのでしょうね。二人にとって、監督とはどのような存在ですか。

山　本　生瀬（良造）監督は、練習の時はビシッと厳しく、でもそれ以外の時はとてもやさしい方です。私たち学生の気持ちをとてもよく分かってくださって、部員一同、いつも感謝しています。

藤　野　河原井（正雄）監督は、つねに「学生のため」を第一に考えてくださる方です。とにかく“熱い”方ですね。そんな監督の“熱さ”が私たち学生にも自然と伝わり、チーム全体の勝利への執念を生み出しているのだと思います。

武　藤　硬式野球部員は、本拠地相模原キャンパス周辺の清掃活動を行っているそうですね。

藤　野　はい、週1回朝に行っています。

武　藤　そうした地域の人々との結びつきからも、青学野球のファンが生まれますから、ぜひこれからも続けてください……とはいえ、何も大学の看板を背負って頑張ろうなどと、大げさに考えることはありません。それぞれが自分のため、仲間のために体育会活動に打ち込み、充実した学生生活を送っていただければいいのです。ただ、あなたたちの活躍がこの大学にいる大勢の人々に勇気と感動を与え、さらに本学のイメージアップに寄与されていることを覚えておいてください。

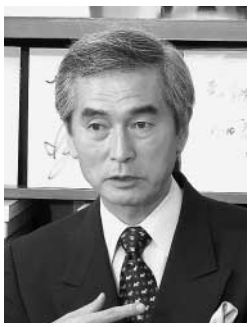
江　泉　秋からのシーズンの抱負は?

藤　野　春の結果はいったん忘れて、ゼロからの再出発……一試合一試合、勝ちにこだわって戦っていきたいです。

山　本　青学のスピードバレーによりいっそう磨きをかけて、秋の関東大学リーグ戦はもちろん12月の全日本インカレにも優勝して、野球部と同じ“日本一”に輝きたいと思います。

武　藤　どちらもこれからも青学らしさを発揮して、悔いのない戦いを見せてください。大いに期待しています!

（2005年7月26日・青山キャンパス8号館学長室にて）



学長
武藤元昭

体育会長（法務研究科教授）
江泉芳信

硬式野球部主将
藤野剛平君
（経済学部経済学科4年）

女子バレーボール部主将
山本美萌さん
（法学部法学科4年）

「大学日本一」に輝いた、青山学院大学硬式野球部

19年間の監督生活で、本学硬式野球部を東都大学リーグの強豪に育て上げた河原井正雄監督。この大学野球を代表する“名将”に、「大学日本一」の座を獲得した今シーズン前半の戦い、そして硬式野球部の部員たちについてうかがいました。
あわせて、永年、硬式野球部の選手たちを励まし、温かく見守ってきた本郷茂部長からのメッセージもお届けします。

硬式野球部監督
河原井正雄

――今シーズンは、昨年の主力が卒業して、3年生を中心とした新たなチームで東都大学春季リーグ戦に臨み、見事10度目のリーグ制覇を果たしました。

河原井　シーズン前はエースの不在が最大の懸案でした。実際、オープン戦ではバッテリーが定まらず、結果が伴わない試合が続いたのです。高市俊（国際政治経済学部3年）がエースとして浮上してきたのは3月中旬からで、4月初め社会人野球の「三菱ふそう川崎」チームとの練習試合で、相手の強力打線をなんとか抑え、チームメートからの信頼を得て、エースの座を確かなものにしました。

――全日本大学野球選手権大会では4度目の日本一、そして無傷の16連勝で、青学の不敗記録をさらに伸ばしました。

河原井　野手に関しては東都大学リーグのレベルを超える選手はほとんど見あたりませんでしたが、ピッチャーは素晴らしい選手がたくさんいました。特に決勝を争った近畿大学のエース・大隣君は、世界でも十分に通用する左腕です。

――その大隣君のほか、本学からも高市・田中・小窪・大崎・横川の5選手が日本代表として選ばれた日米大学野球では、代表監督を務められました。

河原井　日本の大学生たちには、試合を通してアメリカの大学生たちの姿勢を学んでもらいたかった。アメリカの選手は球場に視察にやってきたスカウトに「自分の価値をいかに高く認めてもらえるか」ということを常に意識してプレーしています。日本の大学生も、将来プロをめざすなら、そのくらいの意識の高さが必要でしょう。

――今年の硬式野球部快進撃の理由は?

河原井　実は私にもわからないのです（笑）。正直言って技術的にはそれほど卓越したチームではありません。しかし、いざ試合となったら、気持ちで勝ちに行く……彼らには技術を越えた、そんなハートの強さがあります。たとえば、全日本大学野球選手権大会で殊勲のサヨナラ打を放った4年生の夏井が象徴的でしょう。彼はケガをした主力打者・円谷の替わりに出場したわけですが、私が覚えている限り、公式戦でヒットを打ったことがありません。そんな彼があの場面で、あの大隣投手から打つなんて……今でも「まさか」というのが本音です（笑）。

――硬式野球部は50名の部員の半数が一般入試の学生ですね。

河原井　スポーツ推薦での入学者に比べて、やはり技術や体力面で大きなハンディがあります。しかし、彼らの「野球が好き」「青学でプレーしたい」という気持ちは大切にしたい。だから、部内での差別はありません。主将の藤野を含めてレギュラーにも3名の一般入試入学者がいます。また、練習も個人練習重視で、一人ひとりが自分の足りない点を自主的に伸ばせるようにしています。やらされる練習と自ら望んでやる練習ではその効果は大違いです。私は「もっと上手くなりたい」という選手たちの気持ちを信頼しており、彼らはその期待に十分応えてくれていると思います。

――部員たちの河原井監督への信頼も厚いようです。

河原井　私は気持ちがそのまま言葉に出るタイプなので、厳しいことも遠慮なく言います。しかし、どんなに怒鳴られても、ふてくされる部員はいません。それは信頼関係もあるでしょうし、彼らが真摯に野球に取り組んでいるという証拠でもあります。硬式野球部員、一人ひとりがほんとうに素晴らしい人間です。監督として、それは自信を持って言うことができます。

M・E・S・S・A・G・E

2005年1月、硬式野球部の全体練習開始の際、私は部員諸君に「優勝しましょう!」と呼びかけました。2月の指宿キャンプでは、河原井監督、善波コーチのもと真摯に練習に打ち込む彼らの姿を目に焼き付けました。シーズン前のオープン戦では、まだまだチームのまとまりが見られませんでしたが、私はそれほど心配しませんでした。今シーズンは、東都大学一部リーグが5チームによる入れ替え戦なしの戦いだったので、リーグ戦ではとにかくのびのびと、自信を持って戦ってほしいと願っていました。

そして今、彼らとともにリーグ優勝と日本一、2度の歓喜を味わえたことにこの上ない喜びを感じています。

青学野球の強さの秘訣は、選手間のコミュニケーションの良さにあると思います。主将の藤野君がチームをまとめ、その藤野主将をチーム全体が盛り立てながらの「全員野球」、また、チームの期待を背負った3年生エース・高市君の連投の疲れを見せない粘りのピッチング……そこには勝敗を越えたスポーツならではの感動がありました。

さて、戦力が均衡した東都大学リーグでは油断は禁物ですが、秋のリーグ戦でも選手たちは河原井監督・善波コーチと一体なって、素晴らしい試合を見せてくれることでしょう。青山学院大学で学ぶ学生のみなさんも、ぜひ、神宮球場に足を運び、みなさんの仲間である選手たちと感動を分かち合ってください。

硬式野球部部長
本郷　茂
（経済学部教授）

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に本学のプロジェクトが2件選定

文部科学省が実施している平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に、青山学院大学のプロジェクトが2件選定されました。

今回選定されたのは、経営学部 井口典夫教授の「渋谷・原宿・青山を繋ぐ商業観光拠点の育成ー本学の理念に基づく地域貢献の実践と社学連携体制の拡充ー」（テーマ:地域活性化への貢献（地元密着型））、および総合研究所 eラーニング人材育成研究センター（センター長:佐伯胖文学部教育学科教授）の「e-Learning専門家の人材育成ー世界に通用する専門家育成プログラムの開発と普及ー」（テーマ:ニーズに基づく人材育成を目指したe-Learning Programの開発）。各プログラムの詳細は大学ウェブサイトで紹介していますので、ここでは概要をお知らせします。

平成16年度からスタートしたこのプログラムは、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学・短期大学・高等専門学校から申請された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト（取組）を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の更なる活性化が促進されることを目的とするものです。2年目となる平成17年度は全国から509件の申請があり、本学の2件を含む84件の取組が採択されました。

「渋谷・原宿・青山を繋ぐ商業観光拠点の育成ー本学の理念に基づく地域貢献の実践と社学連携体制の拡充ー」

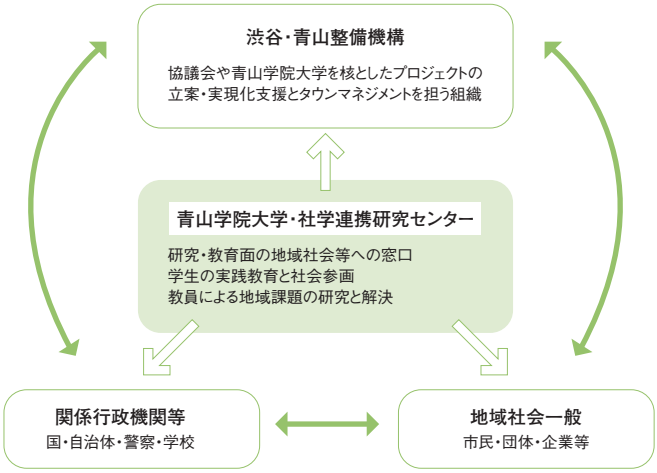
一般的に都心の大学は、地域との関係を意識する機会は少なく、そのため、独りよがりの貢献に終始している、提案しても実現まで責任を持たない、人材育成が不十分といった批判が寄せられる場合があります。本学ではこれらを打開するため、スクールモットー『地の塩、世の光』の精神に基づき、以下の取り組みを実施します。

①地域の学術研究機関として、目標となる将来像（観光立国を意識した渋谷・原宿・青山を繋ぐ商業拠点づくりを具体的なプロジェクトとして提示する。

②将来像の実現に向けて計画的に取り組むための地元組織、渋谷・青山整備機構（仮称）の設立を提案し、その運営に率先して参画する。

③以上を学部ゼミナールなど教育プログラムとの関連の中で進めることで、学生が社会とともに学べる機会を増やし、さらにその経験を踏まえ、研究・教育面で社学連携を推進する学内組織、青山学院大学・社学連携研究センター（仮称）を設置する。

■ 青山学院大学・社学連携研究センター（仮称）の位置付け（イメージ）

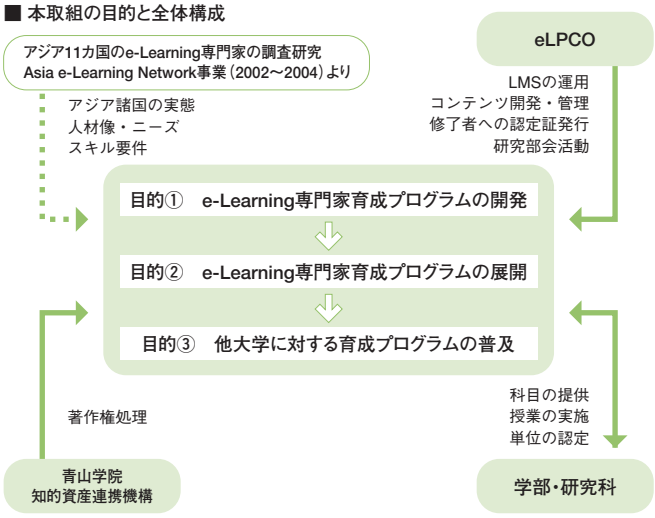


「e-Learning専門家の人材育成ー世界に通用する専門家育成プログラムの開発と普及ー」

本プロジェクトでは、e-Learning専門家を育成するため、さまざまな分野の知見を学際的・体系的に統合した育成プログラムを開発し、全学部・大学院における正規の教育課程として実施します。

今日、高等教育では、学生の学習意欲の低下、教員の授業設計や教授方法の未熟さ、厳密な単位認定の不徹底といった深刻な問題を抱えています。その解決策として、教員が「教える授業」から学生が「主体的に学ぶ授業」への転換が期待されており、その手段として、e-Learningの活用が注目されています。しかし、e-Learning 導入にあたっては、教育目標に即した授業のシナリオづくりと教材制作、学習者個人への学習指導、授業運営の技術的支援が十分に確保されていないために、顕著な教育効果が見られない事例が少なくありません。この状況を打破するため、e-Learning授業を構築・運用する専門的な人材育成が不可欠であり、本取組はこれらの解決を図ります。

■ 本取組の目的と全体構成



WTO（世界貿易機関）設立10周年記念国際シンポジウム開催

2005年は、WTO（世界貿易機構）が設立されてちょうど10年目になります。これを記念し、WTO紛争処理委員会のメンバー7名の出身国（EU、アメリカ、イタリア、日本など）でWTO発足10周年記念国際シンポジウムが開催されます。我が国では、来る2005年10月25日から3日間、青山学院大学の正面にある国連大学を会場に世界中から主要なWTO関係の専門家が約50名、日本からは同じくWTO専門家50名が参集し、一般の方々も含めた国際学術シンポジウムが開催されます。また、開催初日には青山学院大学（青学会館）で歓迎のレセプションも催されることになっています。

25日の初日には一般参加自由のシンポジウム、2日目から3日目にかけては専門家のみのパネルディスカッションが行われる予定になっています。テーマは「WTO紛争解決機構10年の成果と今後の課題」「ドーハラウンドの成功を目指して」「FTAとアジアにおけるビジネス活動」と3部で構成されています。そしてそれらが全て終了した翌日の28日には本学の総研ビル12階において「WTOの諸問題」（仮）と称して国際学術シンポジウムが開催されます。本学での記念シンポジウムには世界的に著名な複数のWTO専門家による講演が予定されています。なおこれは本学の青山スタンダード教育機構との共催で開催されます。現在当センターではこれら国外の講演者との打合せを進めています。

さて、みなさんの中にはWTOと聞いてもあまりピンと来ない人も多数いらっしゃるかと思います。しかしWTOと私たちの暮らしにはとても密接なつながりがあります。例えば、現代社会の諸問題を広く世界レベルで見てみると、FTA(自由貿易協定)が締結され自由貿易が促進されると私たちは「食の安全」や「安心」を確保できるのかどうかの問題、または自由貿易と環境保全は両立するのかなど、多くの問題に直面することがあります。それらの問題には全て直接、間接にWTOの貿易ルールが関わっているのです。最近の話題では、マスコミ報道などでも取りあげられているアメリカ産リンゴの火傷病（かしょうびょう）の件。これはリンゴの木が焼けたようになり枯れてしまうというアメリカの風土病であり、日本はこのアメリカ産リンゴの侵入を防ごうとしたのですが、WTOの裁定では、確固たる科学的証拠が無いとして米国に敗訴しています。この結果、私たちは目に見えない火傷病菌の潜伏可能性が捨てきれない危険性（リスク）のあるリンゴを輸入しなければならないのです。

こうしたケースからも分かるように、WTOは私たちの日常生活に大きな影響を与えています。当センターは今後も上記で挙げたような現代の自由貿易体制の中で発生している諸問題について海外の関係機関とネットワークを広げ、多面的な視点で調査、研究を行っていく予定です。（WTO研究センター所長　岩田伸人　記）

「各国大使講演シリーズ」第4回　ヘンリク・シュミゲロー駐日ドイツ連邦共和国大使講演「ドイツと日本――世界のシビルパワー」

各国大使講演シリーズの第4回目は、今年が第二次世界大戦終結60周年にあたること、また「日本におけるドイツ年」であることから、ヘンリク・シュミゲロー駐日ドイツ大使にお願いしました。「ドイツと日本――世界のシビルパワー」と題して、6月25日、総研ビル12階大会議室で開催された講演には、学外からの参加者、学生、教員ら204人が参加し、熱心に大使の話に聴き入りました。

第二次大戦の敗戦国としてともにめざましい戦後復興をとげた日本とドイツの、もっとも重要な共通点を、大使はミリタリーパワーでも、単なるエコノミーパワーでもない「シビルパワー」と位置づけています。シビルパワーとは、軍事力ではなく、J.ナイのいう「ソフト・パワー」によって社会を運営することだと大使は強調しています。両国がこの60年間心がけてきたことは、戦争で荒廃し疲弊した社会を立て直し、まさしくシビルパワーとして国際社会において安定した地位と関係を築くことでした。

ドイツと日本のシビルパワーが発揮された例として、大使はアフガニスタン再建に際しての日独の貢献をあげています。2001年11月にボンで開かれた反タリバン連合を中心とするアフガニスタンの政治の将来に関する会議と、その2ヵ月後東京で開かれた「復興支援東京国際会議」がなかったら、タリバン以後のアフガニスタンの再建は大幅に遅れただろうと大使は分析します。こうしたシビルパワー外交は、ドイツ連邦共和国が1949年に建国されて以来一貫しているものであり、1990年代には、バルカン、ソマリア、東ティモールなどでも活動しました。現在でも6,460名の兵士が各地に送られています。日本もまた1990年に入ってこうした外交を活発化してきました。

日独のこうしたシビルパワーとしての存在こそ、現在両国が推進している国連安全保障理事会の常任理事国入りの根底にあるものだ、と大使は言います。それは両国の自己主張や、地位と権力の向上、あるいは名誉のためではない、と。大使は、たしかになぜ第二次世界大戦の敗戦国である日独両国が安保理常任理事国にならなければならないのかという質問に答えるのは難しいとしながらも、戦後60年間、両国が歩んできた復興と民主主義の再構築の歴史こそ、両国が前の大戦から学んだ歴史の教訓であり、世界の平和と安定の礎となるものだ、と強調され、とくに両国の憲法や、外交・軍事行動の制限はシビルパワーの証だとされました。

講演のあと大使は、参加した主婦の方や学生、教員からの質問にユーモアをまじえて答えられ、時間をややオーバーして講演会を終えました。安保理改革というタイミングのよさもあり、また大使の名声もあずかって大きな反響をよび、講演内容はジャパン・タイムズと毎日新聞に報じられました。（司会　国際政治経済学部長　土山實男　記）

青山学院知的資産連携機構が発足

2005年4月1日、青山学院知的資産連携機構が発足いたしました。その目的は、学校法人青山学院が設置する学校における知的資産の創造、保護並びに活用に関する施策を集中的かつ計画的に推進することにより、青山学院の財政基盤の充実をはかり、ひいては広く社会に貢献することです。

具体的に申しますと、研究成果の特許化の検討、その特許を使用する企業等への権利処理、出版物やコンテンツの著作権処理、実験方法や教育プログラムのノウハウの具体化などがあげられます。それらを社会に広め、還元し、さらに、青山学院をささえてくださる多くのステークホルダーに青山学院の存在価値をご理解いただかなくてはなりません。

相模原キャンパスでは開学後、以前にも増してさかんに先端研究がなされ、地域社会との連携も進み、成果もあがっておりますので、さらにそれを広く全国にアピールすることも大切だと考えています。

青山キャンパスにおいては、大学、短期大学で外部資金を導入した研究プロジェクトや、学院全体で一貫教育を活かした教材研究などが進んでおり、成果の権利処理などの支援が必要となっております。さらに、高等部、中等部におきましては30年来こつこつと積み上げられた中等教育における研究成果がありますし、初等部、幼稚園においては、特色ある教室外活動などにおいて、すばらしいノウハウや教材の蓄積があります。

それらの貴重な青山学院の資産を伝承していくために、みなさまのご協力、ご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

（機構長　羽坂 勇司　青山学院理事長）

青山学院知的資産連携機構
知的資産マネジメント（IAM）に関する「産学公連携」共同研究

青山学院知的資産連携機構担当
菊池　純一
法学部・法学研究科

知的資産マネジメント（Intellectual Assets Management＝IAM）に関する共同研究は、この4月に設置された「青山学院知的資産連携機構（IMAG）」の活動の実質を形成していくためのさまざまな革新的なアイデアを、産学公連携によってカタチにしていく研究を行います。

近年、多くの大学で、技術移転機関（TLO）や知的財産本部が設置されていますが、「IMAG」は、発明・特許、著作権などの「知的財産」はもちろん、青山学院の建学の理念、スクールカラーといった無形の資産を含めた「知的資産」をトータルにマネージメントする部門横断的な連携（リエゾン）組織です。そしてその目的は青山学院のさまざまな知的資産を管理すると共に、その可能性を育んでいくことにあります。いわば、未来にわたる青山学院の“ブランド価値”を高めながら、キリスト教主義に基づく一貫教育、および先端教育の成果＝アウトカムの増大を図り、その結果本学院の教育研究に対する社会の期待が高まり、入学希望者が増えるといった「インカムの増大」へとつながることを目指していきます。

こうした「IMAG」の活動に必要とされる人材が、知的資産の持つ法制度的、技術的、経営的な特質を正しく把握し、なおかつそれを本学院の社会的ミッションにおける経営資源としての価値を臨床的な視点から適切に評価できるスペシャリスト、いわば「知財クリニックのドクター」です。しかし、これまでそうした専門的能力を持つ人材の育成はわが国はもちろん世界でも例がありません。

今回の産学公による共同研究では、まず「知財クリニック」のテスト実施、および「知財ドクター」育成に関わる研究をスタートさせました。この研究にはITや金融分野の企業、知財に関わる財団法人、さらに他大学大学院の知財関連教授陣との連携のもとに進められます。

「知財クリニック」に関しては大学医学部などの臨床施設を想定していただくとわかりやすいかもしれません。知財の価値をチェックする「健康診断」から契約書作成・改善の提案などを行う「内科的処方」、知財廃棄などの「外科的手術」、さらに権利実施後のファイナンス管理といった「リハビリ」まで、「知財ドクター」がチームとしてさまざまなバックアップを行います。たとえば、理工学部における最先端研究の場合、そのごく初期段階（アイデア段階）から「知財ドクター」が関わり、さまざまな有形・無形の研究支援を行います。これはちょうどベンチャー支援を行うインキュベーターの役割といえるでしょう。もちろん理工学部の研究だけではなく、人文科学・社会科学の各学部の教育・研究から創出されるアイデア、ビジネスモデル、著作物、さらに幼・小・中・高の教育現場で蓄積された教育マニュアルや教育メソッドなど、青山学院における膨大な知的資産を適切に評価し、社会還元するための活動を展開していく予定です。

そして、こうした「IMAG」の活動の基盤となる「青山学院知財データベース（台帳）」の作成に関わる研究にも取りかかっています。

※「知財クリニック」設置は2005年10月を予定。当初は菊池教授を中心に、他大学大学院の教員、知財弁護士、公認会計士の方々が「知財ドクター」を務めながら、大学院および専門職大学院修了者を主な対象とした「知財ドクター」育成を行う予定です。

第1回経営学部
カリフォルニア大学サンタバーバラ校（UCSB）
夏季ビジネス英語研修

経営学部では2005年度、国際的に活躍できる人材の育成の一環として、英語によるビジネス・コミュニケーション能力を高めるため、第1回の夏季ビジネス英語研修をカリフォルニア大学サンタバーバラ校において実施しました。70名を越える応募者の中から抽選で選ばれた32名は、ホームステイとアパートに分かれ、美しいキャンパスで4週間の研修に励みました。

サンタバーバラ校は、約20,000名の学生数を抱え、その中の3,000名は大学院に在学し、また、900名を越える教授陣には数名のノーベル賞受賞者が含まれ、アメリカ有数の研究教育機関です。

研修内容は、広大なキャンパス内の教室や図書館やパソコン室、そして学外企業を活用し、ビジネス英語中級・上級クラスおよびイタリア・ドイツ・ルクセンブルク・韓国・中国・台湾などの学生に混じって受講する一般英語クラスを、月曜日から木曜日まで午前・午後2時間半ずつ受講するもので、各10数名のクラスでは活発な質疑応答や発表が行われていました。

参加学生たちは、ビジネスの企画や広告を作成したり、関心のある国々について発表するほか、地元の企業を訪問して関係者と話したり、さらに週末の旅行やパーティー、スポーツなども精力的に楽しみました。これらに加えて、ホームステイやアパートでの会話訓練を重ね、異なる言語環境に身を置き、その中で自己を発表する場数を踏むことができました。

参加者は、出発前にいろいろ準備し、現地では積極的に活動しましたが、帰国後の発展学習が大いに期待されます。今後、経営専門科目を学びつつ、国際的な活動を目指し、さらなるビジネス英語研修に励んで欲しいものです。経営学部では近い将来、海外企業において種々の研修を受けることも可能になるのではないでしょうか。

（経営学部教授 佐川和茂 記、経営学部専任講師 Brian R. Duff 写真）

法学研究科ビジネスローセンター（ABLC）
マイクロソフト株式会社　D.ヒューストン氏公開講演会

2005年6月30日（木）、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂にて、法学研究科ビジネスローセンター（ABLC）によるマイクロソフト株式会社寄附講座　D.ヒューストン氏公開講演会が開催されました。

法学研究科ビジネス法務専攻では、マイクロソフト株式会社の寄附講座「知的財産総合概論」が開講されており、今回の講演会はその一環で、「グローバルな視点によるIT産業の現状」というテーマで行われました。

青山祭実行委員長からのメッセージ

毎年、前夜祭のコンサートでは超豪華アーティストが登場し、一般の方々も多数来場される青山祭は、全国でも屈指のスケールと内容を誇る学園祭。2005年度実行委員長からのメッセージをお届けします。

2005年度青山祭
実行委員長
小松真之君
（経済学部経済学科3年）

2005年度「青山祭」は、10月28日（金）に前夜祭、10月29日（土）～31日（月）の3日間に本祭が開催されます。

今年度のテーマは「環（わ）～明日への絆～」。青山祭が、出会いに満ち、「笑顔」が咲き、新しい「発見」をし、そして人と人との「環」を生み出す場でありたい……私たち実行委員のそんな思いが込められています。そして多くの学生のみなさんのパワーが結集すれば、「環」はより大きなモノになると考えています。前夜祭、後夜祭、本部企画、著名人の講演会（どなたでも無料）、そして学生によるミュージックフェスティバルやダンスフェスティバルなど、すべての企画においてクオリティの高さは折り紙付き！さらに開催期間中のゴミ減量化やエコ容器の使用など、環境問題にも最大限に配慮しています。青山祭ホームページ（http://www.aoyamasai.com/）で最新情報をチェックして、今年もぜひ、本学最大のイベントを心ゆくまでお楽しみください。

クリスマス・ツリー点火祭 青山・相模原で開催

キリストの降誕を祝うクリスマスまでの4週間を、アドヴェント（待降節）と呼んでいます。その喜びの季節に入ることを心に刻むために、幼稚園から大学院まで青山学院全体がひとつになって行われるこの礼拝が、クリスマス・ツリー点火祭。2005年度は11月25日（金）夕刻より、青山・相模原両キャンパスで開催されます。ここでは当日、相模原キャンパスで素晴らしい演奏を聴かせてくれる大学聖歌隊とハンドベル・クワイア各隊長からのメッセージをお届けします。

大学聖歌隊 隊長

理工学部経営システム工学科3年
大嶋憲行君

私たち大学聖歌隊は、昨年同様、相模原キャンパスでの点火祭に参加します。隊員一同、このイベントを心待ちにしていますが、昨年まで授業の関係で点火祭への出演ができなかった隊長の私が、実はもっとも思い入れが深いかも。そして、今年こそ念願のハンドベル・クワイアとのコラボレーションをぜひ実現させたいと思っていますので、お楽しみに！

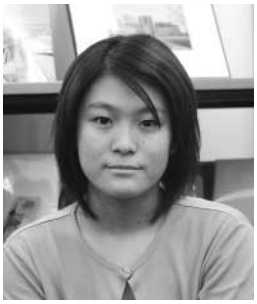
大学聖歌隊では、このほか大学礼拝や各式典、定期演奏会、クリスマスコンサートなど、1年を通してさまざまな機会に歌声を披露しており、毎夏、各地の福祉施設等を訪問する演奏旅行も行っています。私は、高校まで体育会で活動しており、歌とはまったく無縁でした。でも、今では仲間とともに歌うことが、私にとっての何よりの喜びです。そして、いつも聴いてくださる方への感謝の気持ちを込めて歌っています。

すでに冬の寒さが忍び寄ってくる点火祭の時期ですが、しばしの間立ち止まって、私たちの歌声に耳を傾けてみませんか？ツリーに点った光と私たちの歌声で、きっと心がぽっと温まるはず。感謝の気持ちを持って、アドヴェントにふさわしい喜びに満ちた夕べをともに過ごしましょう。

相模原キャンパスでの点火祭も、今年で3年目。ハンドベルは屋内向けの楽器ですので、屋外で演奏する機会はめったにありません。だから、毎年、新鮮な気持ちで演奏しています。以前、キャンパスの近くで買い物をした際、お店の方から「点火祭の演奏を聴きましたよ」と声をかけられ、とてもうれしかった思い出があります。今年もふだんハンドベルに親しんでいない方に、少しでも興味を持っていただけるような演奏を行いたいですね。

ハンドベルの大きな魅力は音色の美しさですが、実は演奏方法も多彩です。青学生のみなさんには、ぜひそんな点にも気を付けて聴いていただければと思っています。ハンドベルは一人では演奏ができない楽器ですが、全員の心が一つになり、曲が完成したときの一体感は、何ものにも変えがたいものがあります。聴いていただく方にもその感動を分かち合っていただけるよう、現在、隊員一同、練習に励んでいます。

大学聖歌隊とのコラボレーションも予定されていますので、きっとアドヴェント（待降節）にふさわしい素晴らしいひとときをお届けできるでしょう。ぜひ、ご来場ください。



ハンドベル・クワイア 隊長

文学部日本文学科3年
相蘇友美さん

青山ビジネス・スクール報告

「アジアのMBA育成の教育システム研究開発」第3回研究会

2005年6月29日（水）と30日（木）の2日間にわたって、第3回「アジアのMBA育成の教育システム研究開発」研究会が開かれました。これは、アジア太平洋地域の主要なビジネス・スクールが共通の教材の開発を目指すもので、カーネギーメロン大学（アメリカ）、ソウル国立大学（韓国）、復旦大学（中国）、東北大学（中国）、マルチメディア大学（マレーシア）、シンガポールマネジメント大学（シンガポール）、モスクワ大学（ロシア）、青山学院大学（日本）により開発した教材の発表が行われました。

ABEST21創立総会

7月1日（金）、アジア太平洋地域を中心としたビジネス・スクールのネットワークであるABEST21（Alliance on Business Education and Scholarship For Tomorrow, a 21st century organization）の創立総会が開催され、参加各校により発足が正式に承認されました。これを受けて、3日（日）には第1回理事会が開催され、会則の承認および常任理事の選出が行われました。今後、ABEST21は国際的な認証評価機関として活動する予定です。

2005年度国際マネジメント研究科外部評価評議委員会の開催報告

7月2日（土）には「2005年度国際マネジメント研究科外部評価評議委員会」が開催されました。評議委員会は、教育機能、研究機能および社会貢献機能等についての外部評価を目的として設置されたもので、21名の国内外の評議委員が参加しました。国際マネジメント研究科側からは「2005現状分析報告書」にもとづいた報告が行われ、評議委員からは学生インタビューを踏まえて活発な意見が出されました。

「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に本学が参加する2共同プロジェクトが選定

文部科学省の平成17年度「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」において、本学会計プロフェッション研究科が参加する国立・私立9大学の共同プロジェクト「会計大学院教育課程の国際水準への向上」、および本学国際マネジメント研究科が参加する国立・私立3大学の共同プロジェクト「ビジネススクール教育の質保証システム開発」が選定されました。

平成16年度にスタートした「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」は、法務、経営管理、会計などの各種の専門職大学院において行われる教育内容・方法の開発・充実等に取り組む優れた教育プロジェクトを選定・公表することによって、それぞれの専門職大学院が選定されたプロジェクトを参考にし、教育内容の充実のための取組を促進し、高度専門職業人養成の推進を図るとともに、日本の国際競争力の強化・向上に資することを目的としています。

地区父母懇談会開催のお知らせ

地区父母懇談会が下記のとおり開催されます。皆様のご参加をお待ちしています。

《東日本地区父母懇談会》

●11月20日（日）高崎市（於：高崎ビューホテル）

●11月26日（土）名古屋市（於：キャッスルプラザ）

いずれも10：30～14：30（受付10：00～）、要・事前申込

※詳しくは、6月下旬に対象となる保護者の皆様へお送りしました、父母懇談会案内リーフレットをご覧下さい。ホームページでも参加申込を受付中です。

※同日に、公開講演会も開催いたします。（要・事前申込）

（お問合せ先：03-3409-8568庶務部庶務課　父母懇談会担当、ホームページhttp://www.aoyama.ac.jp/target/parents/）

2005年度課外教育プログラム活動報告

本学では大学後援会のご支援の下、青山学院の教育方針を具現化すべく、課外教育プログラムを実施しています。2005年度前期～夏期休業中に行われた行事を振り返ります。

●キャンパス・ウォークラリー in さがみはら

5月7日（土）、「キャンパス・ウォークラリーinさがみはら～新入生・在校生交流企画～」が相模原キャンパスにて開催されました。

新入生のグループがウォークラリーで大学に関するクイズを解き、相模原キャンパスと周辺地域に設置されたチェックポイントを巡ることで、キャンパスや大学に慣れ親しみ、愛着を持てるようにしています。また歓迎レセプションでの新入生と在校生の交流、そして企画全体を通した新入生同士の交流をテーマとしています。

また、在校生よりボランティアスタッフを募り、13名の協力を頂きました。F棟に集合した新入生は、グループに分かれて、在校生スタッフや大学教職員の待つチャペルやフィットネスセンター、理工学部の研究施設などを訪れ、ウォークラリーを楽しみました。ウォークラリーの終了後、N棟1階教職員食堂で歓迎レセプションを行い、和やかな雰囲気で新入生と在校生の交流が行われました。参加した新入生からは「今まで知らなかった大学の施設や場所を訪れて、詳しくなれてよかったです。」「他学部・他学科の友達がたくさんできて、ゆっくり話ができました。」「在校生スタッフの方が親切でした。」など、大変好評でした。

●上級救急救命講習会（相模原キャンパス）

6月29日（水）、相模原キャンパスA棟地下1階実技室にて、「上級救急救命法講習会」が、44名の参加により実施されました。

課外活動が本格化する夏期を前に、不慮の事故・事態に対する正しい応急・救急手当を学ぶことで、自ら対応できるように企画されています。今年度も相模原市消防署のご協力により、8時間の実習を行いました。午前中は学生一人ひとりが人形を相手に、心配蘇生法の練習。最初は救助を求める発声など、恥ずかしい気持ちが先立っていましたが、慣れてくるに従って、真剣な表情へと変わっていきました。後半には今回、新たにAED（自動対外式除細動器）を使用した早期除細動の講習も加わりました。まだ一般には見慣れない除細動器の扱いにも消防署の方の指導により円滑に扱う事ができました。早期の除細動実施は、緊急の処置を必要とする患者を救命することにおいて、非常に有効な手段であるとされており、今後の救急救命において重要な機器となると考えられます。不慮の事故への対応はほんの数分が生死を分けると言われています。この講習を通して、このわずかな時間の重みを理解し、適確な対応ができるようになることを期待したいと思います。

●水上（みなかみ）ボランティアワークキャンプ

8月2日（火）～5日（金）、「自然との共生」をテーマに、群馬県・水上町にて「水上（みなかみ）ボランティアワークキャンプ」を実施。今年度は19名の参加者がありました。最初に谷川岳一の倉沢にて、テントサイトの整備やテントの足場の作成を行いました。途中雷雨に見舞われ、作業が難航しましたが、学生達の努力により無事に完成させました。

また、谷川岳の麓を流れる湯檜曽川に仮設の橋を設置する作業を行い、鉄筋を電動カッターで切る作業も協力して行われました。完成した橋を渡る登山客の姿を見て、作成した橋が役に立っていることに学生達は喜んでいました。

この行事では、事前にミーティングを行い、役割分担や実施準備を行ってきました。さらに、夕食後には「ナイト・トーク」という話し合いの場を設け、ボランティア活動の意義やその目的、実施する際の心構えなどについて、真剣な話し合いが行われ、このような交流を通して、同じ目的を目指す仲間としての結束を強めます。ワークキャンプを通して、ボランティアについての理解を深め、今後の学生生活をより有意義に過ごす機会となることを望みます。

Club & Circle Information

問い合わせ先　〒150-8366
青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定（2005年11月～2006年1月）

吹奏楽バトントワリング部 ◎第38回　定期演奏会（12月）
English Speaking Society ◎チャーチル杯スピーチ大会（11月）
青山学院管弦楽団 ◎第87回　定期演奏会（11月）
競技ダンス部 ◎全日本学生競技ダンス選手権大会（12月）
ロイヤルサウンズジャズオーケストラ ◎第37回　定期演奏会・太田市大学Jazz Festival（12月）
二部合唱部コール・フロッシュ ◎第40回記念定期演奏会（12月）
合気道部 ◎全日本学生合気道演舞大会（11月）
居合道部 ◎全日本居合道大会（11月）
剣道部 ◎第23回　全日本女子学生剣道優勝大会（11月）
航空部 ◎第21回　関東学生グライダー競技会（12月）
少林寺拳法部 ◎少林寺拳法全日本学生大会（11月）
柔道部 ◎全日本学生柔道体重別団体優勝大会（11月）
ソフトテニス部 ◎全日本学生選抜インドア大会（11月）
チアリーディング部 ◎全日本学生選手権大会（12月）
馬術部 ◎全日本学生馬術選手権大会（12月）
卓球部 ◎全日本卓球選手権大会（1月）
フェンシング部 ◎JOCジュニアオリンピックカップ（1月）
洋弓部 ◎関東学生アーチェリー連盟インドア戦（1月）
ラグビー部 ◎関東大学対抗戦（12月）

主要活動報告（2005年7月）

硬式野球部◎全日本大学野球選手権大会　優勝
バレーボール部（女子）◎第24回東日本大学バレーボール選手権大会　優勝

News Index 2005.09

2005年9月に大学ウェブサイトで掲載されたニュースの主なタイトルを掲載しています。

05年9月

●相模原キャンパスが「サステナブル建築・住宅賞、国土交通大臣賞（建築部門）」を受賞
●文学部 廣木一人教授が平成17年度「芭蕉祭」文部科学大臣賞受賞
●第12回 青山学院大学同窓祭
●国連大学との共催公開シンポジウム（国際政治経済学部）

ATM利用について

経理部移転に伴い、間島記念館ATM（三井住友銀行）は総合研究所1階のフロアに移設しました。稼動時間は以下の通りです。

●平日:9:00～17:00
土曜日、休日、祝日は休止しています。

なお、しばらくの間は上記時間で稼動いたしますが、17:00以降の延長も検討しています。

2005年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部に所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨励に資することを目的に贈られます。また、青山学院大学大学院給付奨学金は、本学大学院に在籍する学生のうち、学業成績、人物とも極めて優秀と認められる者に対して学資金の給付を行うことにより、将来、社会および文化の発展向上に寄与する人材の育成に資することを目的としています。

2005年度は、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂（6月29日（水））において各キャンパス合同で授与式が行われました。

〈給付奨学金・学部〉

教育学科／野澤雅人
英米文学科／守吉眞弓、関根伸子
フランス文学科／岡田憲二
日本文学科／安彦博子
史学科／梶原令華
心理学科／中島清華
経済学科／日下部沙織、松田希沙、泉里佳
法学科／和田敏宏、伊藤康隆、長本麻依
経営学科／木村紗希、李媛洁、漆原恵理子
国際政治学科／箕輪由美子
国際経済学科／森鮎子、山田学
物理学科／阿部翔舞
化学科／加藤裕美子
電気電子工学科／室木隆仁
機械創造工学科／相澤圭介
経営システム工学科／小室達哉
情報テクノロジー学科／尾形邦裕
第二部教育学科／鈴木裕介
第二部英米文学科／鎮守睦子、守屋智栄
第二部経済学科／富田玲奈、片山哲、山本一夫
第二部経営学科／大和田ちなみ、西條玲子、皿谷美穂

〈給付奨学金・大学院〉

日本文学・日本語専攻／織田真理
心理学専攻／渡部友晴
経済学専攻／妹尾奈津子、藤田貴美子
経営学専攻／林賢是、山本宣明
国際政治学専攻／石神輝雄、松川潔
理工学専攻／内平雄真
機械工学専攻／藤川正毅
国際マネジメント専攻／成川淳之、稲葉雅博

〈給付奨学金・外国人留学生〉

経済学科／黄鑫、李光虎、石翼
法学科／李春梅
経営学科／崔禔仙
国際政治学科／袁巾蔚、智穎
国際経済学科／李艶芬

〈学業奨励賞〉

教育学科／飯嶋さや香、副島由香里、岩本直樹、保坂美緒子、渡部怜美
英米文学科／小林寛美、松下絵里香、小濵須賀子、出頭久美子、三上礼仁瑠、稲葉直美、高瀬麻帆、宮川愛、戸田佳美、本間威壮
フランス文学科／沼田歩美、秋葉典子、堀内龍真、不破雪絵
日本文学科／金子萌、李滿紅、工藤沙織、山本麻理子
史学科／小野瀬あや、飯吉杏菜、山口優子、秋本和博
心理学科／佐藤陽子、髙橋麻梨子、山内理嗣、木下卓
経済学科／青木エリカ、金内健、鈴木奈緒、有賀弘美、戸村紋子、遠藤裕美、伊藤南咲、新田智子、村田優子、山川宗一郎、庄由之、絹田大志、山賀絵梨、渡部みよこ、渡辺広美
法学科／鈴木啓太、溝渕亮、下山慧子、堀内麻衣、加藤裕之、三浦美波、杉田潔信、髙田さやか、藤田慶子、鈴木真澄、木下奈緒、熊谷祐香、布川裕、大髙美香子、益子覚、稲垣紗岐、今岡真麻
経営学科／荒井亮輔、濱元翔太、宮迫秀一、金子満貴、松元沙綾、山崎晴香、野村朋子、蒋盛、柿沼樹里、吉田章紀、田村輝之、江澤侑子、伊藤由紀、髙澤えり子、糸井賢治
国際政治学科／水野愛美、小川彩佳、橘髙明子、田中沙耶未
国際経済学科／湯淺徹也、加藤有香、田中慎吾
物理学科／飯田悠介、南幸雄、村上あい
化学科／久保慶幸、後藤瑶子、松崎真由子
電気電子工学科／小野純和、柄川雅樹、笹川哲広
機械工学科／安部翔一郎、中下恵介、北野翔太
経営システム工学科／荒川俊宏、本瀬陽介、今村愛奈
情報テクノロジー学科／湖上潤、瀧口健太郎、深澤裕
第二部教育学科／岩瀬千紘、東樹京子、阿曽陽子
第二部英米文学科／片桐利博、東麻衣子、鈴木明子
第二部経済学科／神田麻貴子、大平晃弘、越三真理子、村田沙織、吉本枝里、小野口晶子、藤田真理、札治子、河合沙季
第二部経営学科／内堀智子、佐藤茂雄、佐々木麻希子、堀野祐子、髙橋和子、新橋広行

青山学院大学後援会報告

2005年7月1日（金）、青山学院大学後援会評議員会（総会）がアイビーホール青学会館において開催されました。同後援会は、大学と家庭との連絡を密にして意思の疎通を図り、大学の教育及び研究に必要な事業を援助する目的をもって設立された支援団体であり、青山学院大学に在籍する学生の父母及び保証人その他の有志によって構成されております。

主な事業は、下記の大学後援会予算案および決算報告書に示されているとおり、学友会活動補助等の学生活動に対する援助、首都圏ならびに地区別に開催される父母懇談会の開催諸経費から、職員の研修・教職員の福利厚生に対する支援等その内容は多岐にわたります。

評議員会は毎年1回7月に開催され、前年度の事業報告および決算報告、当年度の事業計画および予算案が審議され、あわせて役員の選出が行われます。

今回は、新会長に竹内利明氏（（国立大学法人）電気通信大学産学官等連携推進本部特任教授）、新副会長に大瀧政明氏（UFJつばさ証券㈱企業開発部部長代理）をはじめ、新任・継続あわせて92名の役員が選出されました。

評議員会終了後、席を移し出席された役員の方々、本学院長ならびに学長ほか大学教職員をまじえ、交歓のひとときがもたれました。

2004（平成16）年度

大学後援会決算報告書

収入の部

（単位　円）

科目	予算	決算	差異
前期繰越金	33,629,759	33,629,759	0
会費収入	107,190,000	107,676,000	△ 486,000
利息収入	1,000	982	18
合計	140,820,759	141,306,741	△ 485,982

支出の部

（単位　円）

科目	予算	決算	差異
学生活動関係			
学友会活動補助	30,000,000	29,611,592	388,408
学友会活動指導補助	14,000,000	13,650,000	350,000
保険料	13,000,000	12,276,000	724,000
奨学金事業補助	10,000,000	10,000,000	0
大学行事補助	5,250,000	1,358,300	3,891,700
アドバイザー・グループ会合費補助	1,100,000	995,000	105,000
ゼミナール活動等補助	1,500,000	570,795	929,205
構内環境整備補助	10,000,000	10,000,000	0
奨励金	1,500,000	0	1,500,000
後援会行事関係			
父母懇談会費	24,000,000	19,929,713	4,070,287
印刷費	150,000	106,050	43,950
旅費交通費	100,000	61,910	38,090
会議費	1,800,000	1,451,520	348,480
消耗品費	100,000	18,806	81,194
通信費	100,000	57,810	42,190
教職員関係他			
職員研修費補助	11,000,000	9,464,308	1,535,692
教職員福利厚生費補助	2,300,000	1,853,500	446,500
慶弔費	1,200,000	870,000	330,000
雑費	200,000	0	200,000
予備費	13,520,759	0	13,520,759
支出計	140,820,759	112,275,304	28,545,455
次期繰越金	0	29,031,437	△29,031,437
合計	140,820,759	141,306,741	△ 485,982

2005（平成17）年度

大学後援会予算

収入の部

（単位　円）

科目	2005年度予算	2004年度予算	差異	摘要
前期繰越金	29,031,437	33,629,759	△ 4,598,322	会費収入内訳 第1部 @6,000円 ×15,150名 = 90,900,000円 大学院 @3,000円 × 1,250名 = 3,750,000円 第2部 @3,000円 × 1,910名 = 5,730,000円 〃 @4,000円 × 700名 = 2,800,000円
会費収入	103,180,000	107,190,000	△ 4,010,000	
利息収入	0	1,000	△ 1,000	
合計	132,211,437	140,820,759	△ 8,609,322	

支出の部

（単位　円）

科目	2005年度予算	2004年度予算	差異	摘要
学生活動関係				
学友会活動補助	33,000,000	30,000,000	3,000,000	学友会クラブ活動補助他
学友会活動指導補助	14,000,000	14,000,000	0	学友会指導者・監督への謝礼(交通費一部負担額)他
保険料	12,000,000	13,000,000	△ 1,000,000	学生教育研究災害傷害保険
奨学金事業補助	10,000,000	10,000,000	0	奨学資金への補助
大学行事補助	3,000,000	5,250,000	△ 2,250,000	大学行事補助
アドバイザー・グループ会合費補助	1,100,000	1,100,000	0	アドバイザー・グループ会合費補助
ゼミナール活動等補助	1,200,000	1,500,000	△ 300,000	ゼミナール活動補助他
構内環境整備補助	10,000,000	10,000,000	0	構内環境整備補助
奨励金	3,000,000	1,500,000	1,500,000	学業奨励他
後援会行事関係				
父母懇談会費	22,000,000	24,000,000	△ 2,000,000	首都圏及び地区別父母懇談会開催諸費用
印刷費	150,000	150,000	0	役員名簿・決算報告書印刷費
旅費交通費	100,000	100,000	0	事務連絡交通費
会議費	1,800,000	1,800,000	0	評議員会・懇親会費用
消耗品費	100,000	100,000	0	事務用消耗品
通信費	100,000	100,000	0	役員会・評議員会通信費
教職員関係他				
職員研修費補助	11,000,000	11,000,000	0	職員研修費補助
教職員福利厚生費補助	2,000,000	2,300,000	△ 300,000	教職員同好会補助他
慶弔費	1,000,000	1,200,000	△ 200,000	教職員等の慶弔費用、学友会関係祝金
雑費	200,000	200,000	0	各校友会支部との懇親会補助他
予備費	6,461,437	13,520,759	△ 7,059,322	
合計	132,211,437	140,820,759	△ 8,609,322	

2005年度 就職関係行事

（10月～1月までの行事を掲載）

	行　事	対象者	日　程	備　考
青山キャンパス	マスコミセミナー	学部3年生	10月１日（土）	マスコミ業界への就職についてのセミナー
	Uターン就職セミナー	学部3年生	10月５日（水）	Uターン就職についてのセミナー
	働く女性セミナー	学部3年生	10月15日（土）	自分らしい人生を送るため、多様な働き方やキャリア形成を含めての講演会
	メイク講座	学部3年生	10月15日（土）	活き活きと就職活動するためのメイク
	職種別セミナー	学部3年生	10月17日（月）・19日（水）・26日（水）	営業職・MR職・システムエンジニア職についてのセミナー
	航空業界セミナー	学部3年生	11月５日（土）	航空業界最新採用情報についてのセミナー
	ファッションビジネスセミナー	学部3年生	11月12日（土）	アパレル業界への就職についてのセミナー
	映像メディア就職セミナー	学部3年生	11月19日（土）	「映像事業の今、そして未来」の講演会と個別会社説明
	人事担当者による就職セミナー	学部3年生	11月22日（火）	企業の人事担当者によるパネルトーク（より良い就職のために）
	マナー講座	学部3年生	11月26日（土）	社会で必要なビジネスの常識とマナー（有料）定員250名
	4年生体験報告会	学部3年生	10月８日（土）、12月１日（木）・２日（金）	就職活動を終えた4年生との懇談・質疑応答
	面接対策講座	学部3年生	12月17日（土）	企業で活躍している青学のOB・OGによる本当の面接を事前に味わい、戦略的な面接の技を体得する
	第二部学生による就職体験報告会	第二部1～3年生	11月11日（金）	就職活動を終えた4年生との懇談・質疑応答
	第二部学生向け職業・興味適性テスト	第二部1・2年生	10月13日（木）・15日（土）	卒業後の進路を考えるための意識づけとして実施
	職業適性テスト	学部3年生	10月５日（水）・８日（土）	自己の職業への興味、パーソナリティ、能力を知る（有料）
	職業適性テスト解説ガイダンス	学部3年生	10月22日（土）	検査結果の見方についてのガイダンス
	エントリーシート対策講座	学部3年生	11月４日（金）・18日（金）、12月21日（水）	エントリーシートの書き方を講義し、実際に書いたシートを添削（有料）
	模擬試験	学部3年生	10月22日（土）、12月22日（木）	一般常識テスト（有料）
			10月12日（水）、12月３日（土）	SPI対策講座（有料）
	web テスト	学部3・4年、院生	随時	就職活動支援システム上で受けられる就職模擬試験（要購買会申込）
	学内企業セミナー	学部3年生	11月～12月	各企業の採用担当者を招き、学内で実施する説明会
	OB・OGとの交流会	学部3年生	12月12日（月）	各業界の若手OB・OGと直接話をすることで、働く姿をイメージし、職業観を深めていく
	公務員試験対策セミナー	学部3・4年、院生	10月12日（水）	来年の受験生を対象に、試験の傾向や対策・準備を専門講師が説明
	公務員ガイダンス	学部1・2年生	12月14日（水）	公務員の仕事、採用試験についての説明会
	公務員試験合格者報告会	全学年	12月14日（水）	公務員試験合格者との懇談、質疑応答
	公務員採用説明会	学部3年生	10月17日（月）～20日（木） 11月９日（水）・10日（木）・11日（金）	各種公務員の採用担当者による説明会
相模原キャンパス	**理工学部生・大学院生対象**			
	エントリーシート対策講座	学部3年・院1年	10月19日（水）	自己分析の方法、エントリーシートの書き方の講義
	一般常識テスト	学部3年・院1年	10月26日（水）	国語・数理・英語・社会・時事などの一般常識テスト
	第2回SPI模擬テスト	学部3年・院1年	11月５日（土）	多くの企業が実施している代表的適性検査
	面接対策講座	学部3年・院1年	11月９日（水）	模擬面接実施
	業種別内定者による報告・相談会	学部3年・院1年	11月30日（水）	今年度内定者による報告及び相談会
			12月７日（水）	
			12月14日（水）	
	業界研究会	学部3年・院1年	12月10日（土）	各業界の採用担当者を招き、学内で実施する企業説明会
			12月17日（土）	
	学科就職ガイダンス	学部3年・院1年	１月11日（水）	学科就職担当教員が行うガイダンス
	全学部生対象			
	職業興味適性テスト	学部1・2年生	10月19日（水）	将来の進路を考える意識づけとして、1・2年生対象に実施
	第2回公務員ガイダンス	文系1・2年生　理系全学年	11月30日（水）	公務員試験・職種等の説明と4年生の報告

※青山キャンパスの行事には院1年生も参加できます。追加、変更等もありますので、詳細は必ず掲示板にて確認してください。

進路グループ主催連続講演会

菅原牧子氏

岩渕健輔氏

進路グループでは低学年次からのキャリアサポートの一環として、連続講演会を実施しました。第1回目（5月25日実施）は進路グループから「進路・就職を考えるためのオリエンテーション」と題して文・理系学部の新入生を対象に、将来の夢の実現のためには「充実した学生生活を過ごす」ことの重要性、そのためのアドバイスを行い、2回目からは各界で活躍されている先輩をお招きして「先輩たちは、どのようにキャリアを築いたか」をテーマにお話をしていただきました。

第2回目（6月6日実施）はフランス文学科を卒業され、日本大学芸術学部放送学科教授で元TBSアナウンサー菅原牧子氏（写真上段）をお招きし、菅原氏の学生時代から現在に至るまでのキャリアを学ぶことができ、具体的な面接時の姿勢、対応などのご指導もいただきました。また、第3回目（6月22日実施）はプロラグビー選手である岩渕健輔氏（写真下段）をお招きしました。岩淵氏は国際政治経済学部を卒業されその後、英国サラセンズチームに所属しながら、ケンブリッジ大学に留学、同大社会政治学修士号を取得されました。岩淵氏の積極的な生き方、〈何もしない時間をなくす〉という、時間を有効に使う姿勢には学ぶことが多かったと思います。各回に参加した学生からは「進路を考える上で大変参考になった」「先輩のように頑張りたい」などの感想が聞かれました。

進路グループでは、機会があればこのような講演会を引き続き開催したいと考えていますので、学生のみなさんは是非参加してください。

相模原キャンパス学生支援ユニット進路グループ

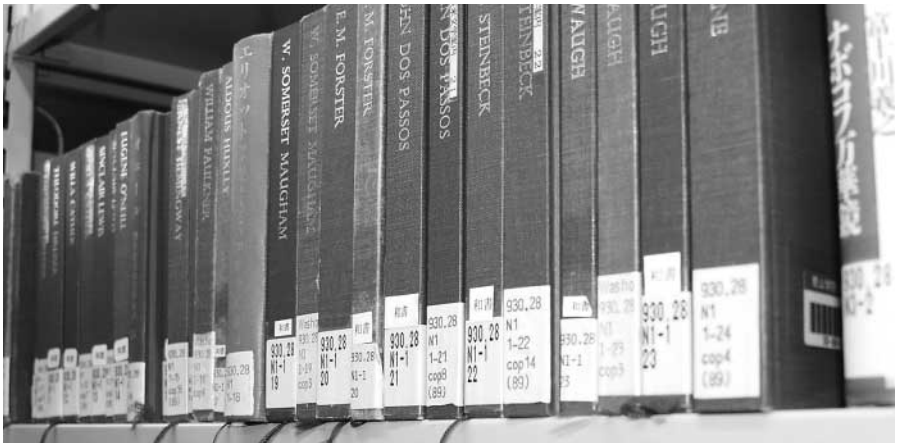
嶋田 順好
国際政治経済学部 教授

誌上公開講座 No.29

青山スタンダード

フレッシャーズ・セミナー「読書の喜びを見出すためのゼミ ——食わず嫌いを克服しよう——」

近年、若者の読書離れが指摘されています。しかし、読書によって培われる読解力や想像力は、高度情報化社会が進展する中で、ますます重要性を増していると言えるでしょう。嶋田順好教授が担当するフレッシャーズ・セミナー（ゼミ）の目的は、学生に読書の楽しさを発見してもらうこと。実際に本を読むことはもちろん、読売新聞社「21世紀活字文化プロジェクト」との連携により、著者のナマの声を聞く機会もあります。



なんとなく読書のきっかけをつかめなかった人たちによりすぐりの“レシピ”を用意

一風変わったゼミの名称に戸惑う学生も多いと思いますが、この名称こそゼミの目標そのものを表しています。つまり、ゼミの対象は、今まで受験勉強に追われ、「本が読みたいな」と思いながらなかなか読めなかった人、コミックはたくさん読むけれど、活字が多い本に苦手意識を持っている人です。これまでたくさん読書してきた人や現在もまったく読書に関心を持てない人のためのゼミではありません。いわば「食わず嫌い」の人が、食べてみたら「意外に美味しいね」という喜びを発見するためのゼミなのです。

“レシピ”としては、ボリューム感があり、油ぎっていて、いかにも胃にもたれるような本は避け、まずは口当たりもよく、消化の良いものを用意しています。とは言え、食の好みが一人一人異なるように、本の好みも十人十色。課題図書としては、文学、ノンフィクション、エッセーなど、さまざまなジャンルの本を取りそろえ、「日本語」「仕事」「恋愛」をキーコンセプトに、面白く、はっとさせられて、何か人生の大切なことを考えさせてくれる作品を選んでいます。

「読む」「話し合う」がゼミの基本 2人の作者を大学にお招きし、ナマの声を聞くこともできます

ゼミの基本は、まず「本を読むこと」。参加者は、課題図書を常に携行し、通学時間などを利用して、毎日、最低30分は読書するようにしてください。また、ゼミには遅刻せずに出席し、どんなにつたない表現でもかまいませんから、恥ずかしがらずに自分の読後感を表現してほしいと思っています。このゼミでもっとも大切にしたいことは話し合うことです。私は学生のみなさんに何かを教えるというよりも、話し合いの場で、どんどん問いかけ、みなさんのさまざまな感想を引き出す、いわば対話の交通整理役に徹するつもりです。私が不在でも学生だけで話し合いができることが理想です。

なお、このゼミは読売新聞社「21世紀活字文化プロジェクト」活字文化推進会議とタイアップしており、2006年1月14日（土）、作家の清水義範氏を青山キャンパス（ガウチャー・メモリアル・ホール）にお招きした公開講演会を開催する予定です。また、2005年11月18日（金）には、第36回大宅壮一ノンフィクション賞（2005年）を受賞された新進気鋭の作家・稲泉連氏を相模原キャンパスにお招きして、学内講演会を実施することになっています。もちろんゼミでは、事前に清水、稲泉両氏の作品を取り上げており、ゼミ参加者はこの2つの講演会に必ず出席することになります。

本ゼミに参加することによって、学生が「読書の楽しみ」を見出してくれれば、担当教員としての私に言うことはありません。

【今後の予定】（変更の可能性があります）

- **10月21日（金）**
  立花隆・東京大学教養学部
  立花隆ゼミ『二十歳の頃Ⅱ』
- **11月4日（金）**
  清水義範『バードケージ』
- **11月11日（金）**
  稲泉連『僕らが働く理由、働かない理由、働けない理由』
- **11月18日（金）**
  稲泉連氏講演会
- **11月25日（金）**
  東野真『緒方貞子 ―難民支援の現場から』
- **12月2日（金）**
  アラン・ピーズ、バーバラ・ピーズ
  『話を聞かない男、地図が読めない女』
- **12月9日（金）**
  小川洋子『博士の愛した数式』
- **12月16日（金）**
  大崎善生『孤独か、それに等しいもの』
- **1月13日（金）**
  アガサ・クリスティ『春にして君を離れ』
- **1月14日（土）**
  清水義範氏講演会

オープンキャンパス開催報告

2005年度オープンキャンパスは、7月3日（日）相模原キャンパス、7月17日（日）および9月24日（土）に青山キャンパスにおいて開催されました。7月は相模原キャンパスにて2,209名、青山キャンパスにて10,101名、そして9月には台風の接近に伴う雨のなか、4,188名の高校生とその保護者のみなさまが来場しました。総来場者数は16,498名となり、本学の人気の高さがうかがえました。「吹奏楽バトントワリング部」「応援団」「チアリーディング部」「ハンドベルクワイア」「アナウンス研究会」などの学生団体をはじめ、青山スタンダード概要紹介、各学部・学科の紹介や模擬授業、英語入試問題解説など様々な企画を、在学生・教職員の協力を得て実施いたしました。また例年のように実施にあたり多くのボランティア学生に受付や案内誘導で協力していただき、来場のみなさまにも明るく親切な応対が評価されました。

なお、7月30日（土）には、青山キャンパスにおいて、社会人を対象としたオープンキャンパスも開催、500名（昨年度563名）が来場しました。キャリアアップをめざす向学心の強い方ばかりで、充実した説明・懇談が実施できました。

相模原キャンパスでのボランティアのみなさん

青山キャンパスでのボランティアのみなさん

一万人目の来場者に副学長より記念品贈呈

高校1・2年生のための大学説明会

高校1・2年生の早期より、本学への進学を希望している高校生とその保護者を対象にした大学説明会を開催します。

日　時:2005年11月13日（日）
10:30～16:00（予約不要、入退場自由）

場　所:青山キャンパス

開催内容（予定）:歓迎礼拝／パイプオルガンコンサート／保護者を対象とした大学ガイダンス／全学共通教育システム「青山スタンダード」概要紹介／大学紹介・入試概要紹介／大学紹介ビデオ上映／資料閲覧／資料配布（大学案内パンフレット等）／個別進学相談／リスニング試験体験／在学生による合格体験トークライブ／在学生による個別相談／学生団体によるアトラクション等

※詳細な企画内容および時間は、大学ホームページをご覧ください。
http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/index.html

アドバイザーグループ紹介 ❸

アド・グル（Ⅱ）ローターアクト・クラブ〈西澤アド・グル〉

私のアド・グルは、これまで、「寺子屋式民法入門」という内容で行ってきましたが、本年秋からこれを「アド・グル（Ⅰ）」とし、新たに2つ目のアド・グルを組織することにしました。それが、タイトルの「アド・グル（Ⅱ）」です。

これは、100年前に創設され、シカゴに本部を有する「国際ロータリー（RI）」の社会奉仕（新世代＝青年男女）活動のひとつである「ローターアクト・クラブ（RAC）」に参加し、親睦、専門知識開発、クラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕などの活動をしようというものです。RIの傘下には、現在166カ国に約32,000の「ロータリー・クラブ（RC）」があり、120万人を超える会員がいます。日本最初のRCは、青山学院に縁の深い米山梅吉氏によって1920年に創設されました。現在、2,300以上のクラブに10万人を超える会員がいます。

今回の「青山学院大学RAC」は、「東京渋谷RC」（本年度の会長は、私です）が提案して、同クラブ理事会の承認を得ています。先日、全学の学生を対象に、説明会の案内を出したところ、約100名の学生から反応がありました。RCの会員をはじめとする社会の様々な人達との交流や奉仕活動を通して、専門知識と指導能力を開発し、普通の大学生とはちょっと違った経験をしたい人達にお勧めします。

法学部　西澤宗英 教授

AGUニューズについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニューズ」を年5回（1月、3月、5月、7月、10月）発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニューズ専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニューズ」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口　青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活グループ

広報入試センター広報課●2005年10月20日発行●